

現代の子育てにおけるサードプレイスの有用性について

茨城県立土浦第一高等学校
2年 A組 舟串あやか 2年 F組 新階玲舞
2年 E組 土井琴颯 2年 D組 近藤愛果
指導教員 鈴木美樹先生

【英語要旨】

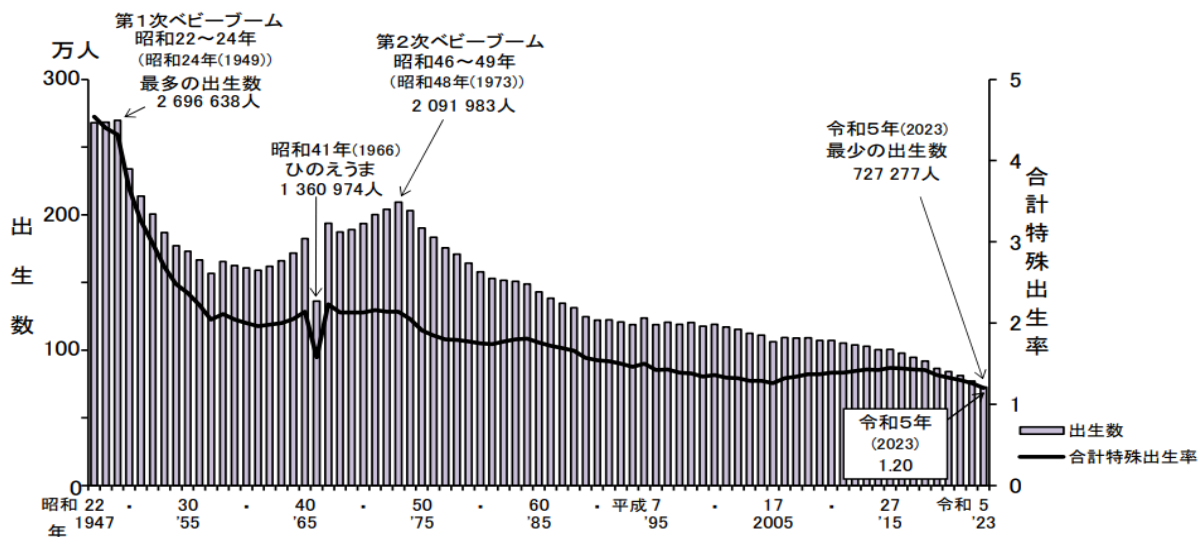
In recent years, Japan is facing an aging society with a declining birthrate. In this society, the word “Kosodate” which points out the matter of tendency for parents to do child rearing without daily help from others is getting attention. We will validate the usefulness of a “third place” for parents and propose the idea of making institutions with equipment in the form of furniture.

【要旨】

近年、少子高齢化に際して孤独な子育ての問題性を指摘する「孤育て」というワードが注目を集めている。そこで、子育て世代のための「サードプレイス」の有用性を検証し、その具体例として、家具型の設備を用いた施設づくりを提案する。

1. 序論

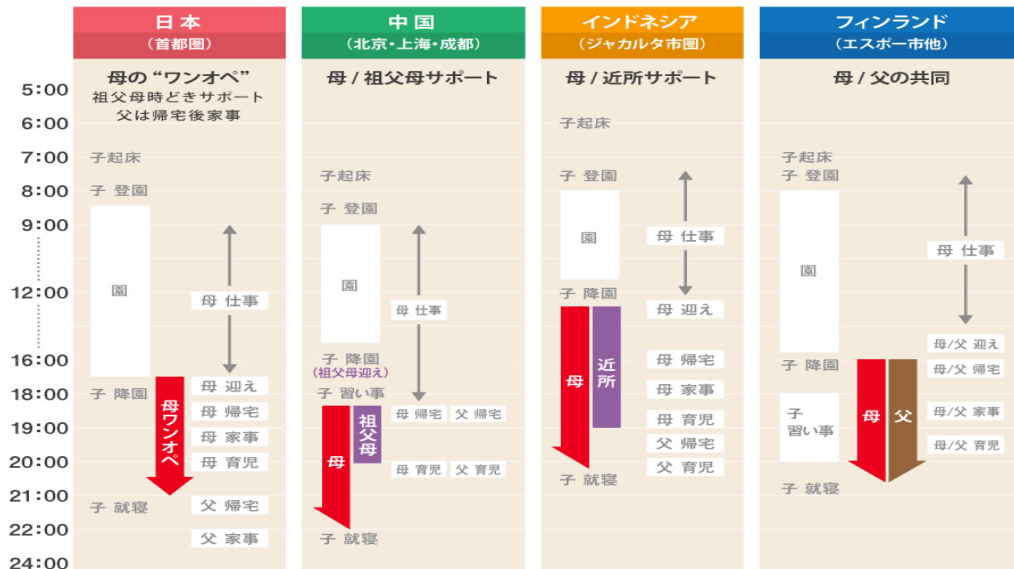
近年、日本では少子高齢化が他の先進国と比較しても著しく進行している。2024年の調査では合計特殊出生率が1.20と過去最低を更新するなど、その影響が不安視されている。



<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai23/dl/gaikyouR5.pdf>

また、Benesse corporationの研究から以下の図にあるとおり、日本では他国と比較して母親だけが家事や育児を行う時間が極端に長いことがわかる。

■「4か国の家族の平日の一日」から、家事育児を主にだれが担うかに着目した図



https://www.benesse.co.jp/brand/category/lifestyle/20190905_1/

先行研究から

KDDI総合研究所と横浜市周辺に在住の子育て期にある母親の共同創作研究では、「ママたちのココちいいをカタチにしてみたらプロジェクト」と題し、母親にとって居心地の良い場所とはどのような場所なのかを研究した。そこで目につけたのが「サードプレイス」だ。ここでは「シェア冷蔵庫」を用いて母親同士のコミュニティを形成し、LINEなどの仮想空間での活発なコミュニケーションによってそれを増幅させた。また、参加者の感想は以下の通りだった。

- (1). 家族からはめったに褒められない自分の料理が、シェア冷蔵庫では肯定的に評価されるため、母親としての自尊心が満たされる。
- (2). 自身の興味関心ではなく、子供を共通点とした新しい人間関係が形成される。
- (3). 他所の家庭の味付けや、食材のなどについての新しい知識といった、食に関する刺激を得ることができ、自身の料理に役立てることができる。

この研究から、子育て期の母親にとってのサードプレイスとは、“母親としての私”が満たされる場所であることが示された。

そこで我々は、先行研究の調査から家でも職場でもない、子育て世代の第三の居場所となる「サードプレイス」の有用性を見出し、サードプレイスが子育てへのマイナスイメージを軽減し、近年の「子育て離れ」の改善への足がかりになるとの仮定のもと、次の調査を行い、仮説検証を行った。

2. 調査方法

調査1

土浦市に隣接する3つの市町村の計9つの保育園・幼稚園・児童館に子供を通わせる保護者を対象に「子育ての実情」をテーマにアンケート調査を実施

調査2

土浦一高2年生を対象に「子育ての印象」をテーマにアンケート調査を実施

調査3

宮城県仙台市の放課後子供クラブ「ぐらんりんく」と第3のプラットフォーム「ぼぼらす」を訪問

調査4

外国人の方、一高生を対象に、アンケート調査を実施

調査5

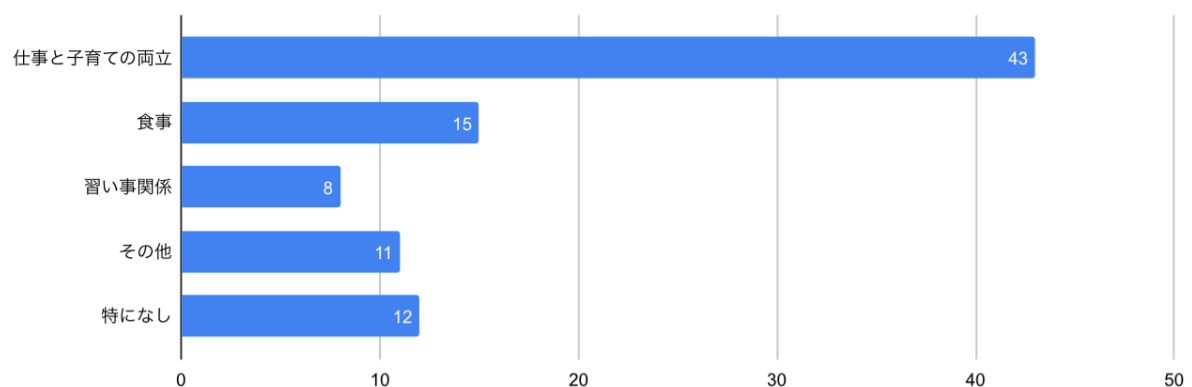
神奈川県横浜市の建築家、二宮さんに「ぐらんりんくの家具」についてお話を伺う

3. 本論

(1)調査1,2の結果から

調査1では9つの保育園・幼稚園・児童館に子供を通わせる保護者(回答88名)に、子育てで1番困っていることは何かを調査した。

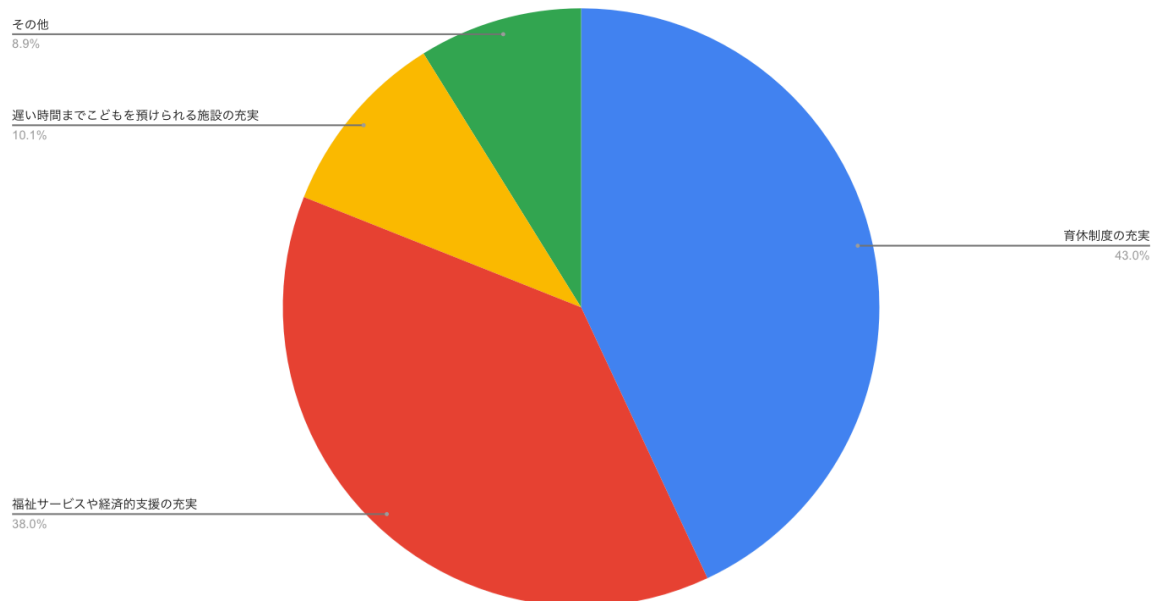
問1 子育てにおいて一番困っていることは何ですか。



ここでは、仕事と子育ての両立と回答した方が50.6%と半数以上を占めた。

また、調査2では、土浦一高の生徒(回答111名)に、仕事と育児の両立のために最も必要だと思うものを調査した。

問2 仕事と育児の両立の際、社会に最も必要だと思うものは何ですか



ここでは、仕事と育児の両立のためには、遅い時間まで子供を預けられる施設が必要なのではないかという意見が38.7%と、約4割を占めた。

(2)子育ての不安を増幅させる「孤育て」

調査3において、「ぼぼらす」の さんのお話から、現在の子育て中の親に対する日本の環境について次のような問題点を確認できた。

- ・近年、育児において親が孤立してしまう「孤育て」に陥ってしまうケースが多い
- ・核家族化が進行し、子育て中に頼れる人が少なくなった(主に都市部)
- ・各家族間の交流が希薄
- ・親同士が交流できるコミュニティが少ない

これらの課題を解決することが子育ての負担軽減の第一歩になるだろう。

また、放課後児童クラブ「ぐらんりんく」では、ビルの一室を有効活用し、子供達が大きく体を動かして遊べる空間デザインを見学した。都市部など広い空間が確保しにくい地域でものびのびと過ごせる空間づくりを学ぶことができた。

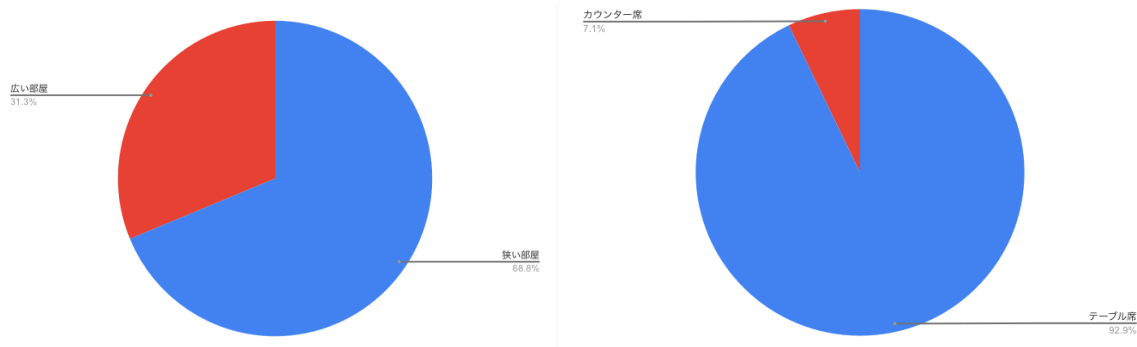
(3)過ごしやすい施設作り

調査1,2,3より課題解決のターゲットを、核家族化が顕著に進行しているため「孤育て」に陥りやすく、子育て人口も多い都市部に絞り、都市部での子育てコミュニティづくりのための施設づくりを進める。また、より活発で親密なコミュニティ形成のためには大人も子供も快適で過ごしやすいと思える施設づくりが重要だと考えた。

そこで我々は、調査4として、どんな環境が落ち着くか、話しやすいのはどんな空間かなど3つの質問を、一高生を対象にアンケート調査した。

問3 どちらが落ち着きますか

問4 どちらが話しやすいですか



この結果から、次のような考察ができた。

- ・会話をしやすいのはテーブル席型の場所である
- ・空間的に小さな部屋の方が落ち着いて過ごすことができる。

この結果を元に、調査5として「ぐらんりんく」の空間設計を担当した二宮さんに都市部における、過ごしやすい空間づくりについてお話を伺うと、

- ・都市部は広い空間を確保出来ないため、平面だけでなく、立体的に閉塞感のない構造にするべき
- ・都市部の特性を考慮し、施工になるべく時間と手間がかからないものが好ましい
- ・大人と子供が過ごす空間の境界を無くすべき

と言った提案を頂いた。

よって、アンケートと二宮さんのご提案から、家具形式の設備を利用した施設の構成の着想を得た。

4. 考察

(1)の結果より、子育てする保護者たちにとっていちばん負担となっているのは仕事と子育ての両立であり、それを軽減するには子供を預けられる施設の充実が必要だということが推測される。また(2)の結果から、子育ての負担軽減、不安解消の一助として、都市部における子育て中の親

の孤独を解消するためのコミュニティ形成を目的とした、家や職場以外の第三の居場所となる施設作りが有効といえるだろう。また、その一例として「サードプレイス」が有効であり、「孤育て」解消の一助になることが証明できた。

そこで我々は狭小空間での効率的な家具設計と迅速なサービス提供を実現するために、都市部における家具形式の設備を用いた親と子供の第三の居場所となる「サードプレイス」設置を提案する。

我々が考える家具形式の設備は次のとおりである。

これまで行ってきた調査に基づき、我々が考案した「アメイジングチェア」を提案する。我々は、小さな家具を複数組み合わせることにより、様々な用途に使用可能なモデルを考案した。

下図は、アプリを用いて家具を3D化した図である。この家具は、椅子と机の両方の役割を果たし、各角に配置された強力な磁石により、各家具をアタッチメントすることができる。家具にはタイプ1とタイプ2の2種類があり、側面の空いている数が異なる。これらの組み合わせにより、簡易的な保育スペースや、子どもの遊び場として迷路を作ることができる。我々はダンボール迷路と、仙台市ぐらんりんく大型家具から着想を得た。タイプ1とタイプ2の組み合わせと数によって、様々な順路を生み出せるので、その場にあった楽しみ方を作り出すことができる。

DIYアプリで検証したこれらの家具の原材料費と大きさは次の通りである。

原材料費：タイプ1タイプ2の合計(4個) 約6000円

大きさ：机 50cm×50cm×70cm 椅子 50cm×50cm×40cm

図1

図2

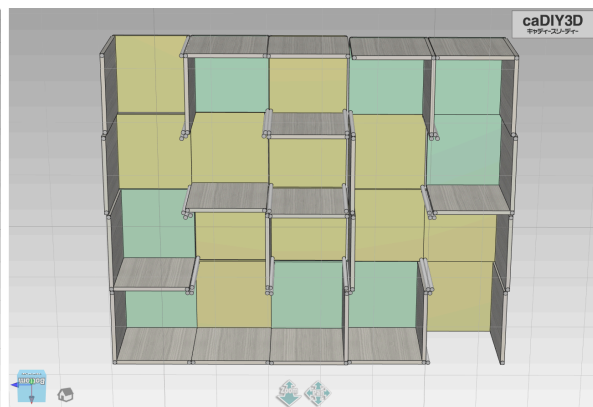
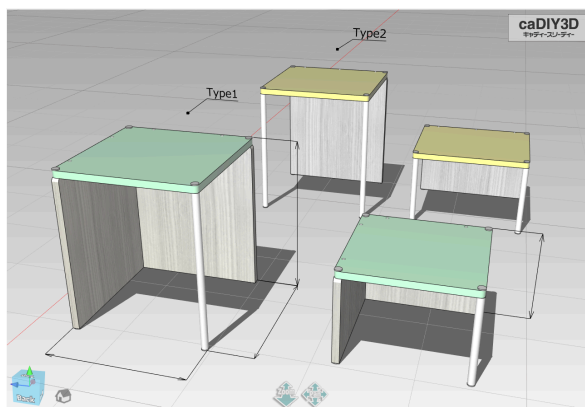
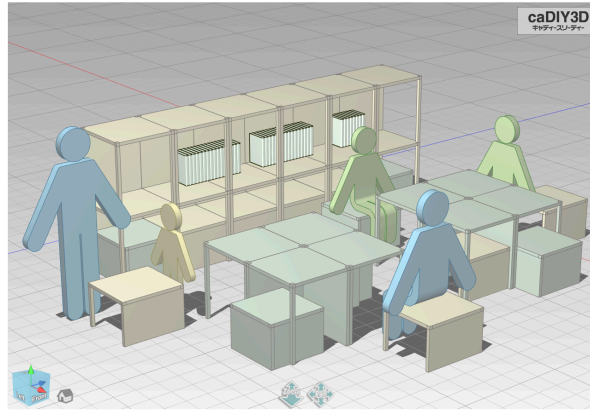
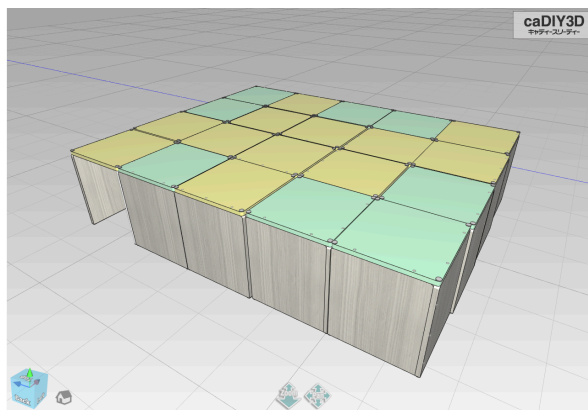


図3

図4



5. 結論

子育てにおいて最も憂慮される点は仕事と子育ての両立の難しさであり、それを改善するためには子供を預けられる施設の充実が必要である。また、子育てにおける不安解消のためには、保護者同士が関わりを持てるようなコミュニティの形成が重要である。

6. 今後の展望

今後はこの設備をより具体化し、これを利用した新たな子育てコミュニティの形成を進めていきたいと考える。

7.謝辞

親と子のサードプレイスぽぽらすの皆様、ぐらんりんくの皆様、二宮博様、アンケートにご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

8.参考文献

厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai23/dl/gaikyouR5.pdf>

令和5年 人口動態統計月報年計(概数)の概況

Benessecorporation

https://www.benesse.co.jp/brand/category/lifestyle/20190905_1/

日本の働く母親は“ワンオペ”で大変？！ 4か国比較で見えたワークライフバランス向上のカギとは

大戸 朋子・吉田 悠・東 條 直 也・新 井 田 統 (KDDI 総合研究所)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2020/0/2020_D10/_pdf/-char/ja

子育て期の母親を対象としたサードプレイスの検討「ママたちのココちいいをカタチにしてみたらプロジェクト」を事例として